

大草谷津田いきものの里 自然観察会

めざせ、トンボ博士！

石嶋基次（千葉市）

日 時：2012年9月2日（日）10:30～12:00 天候：雷雨 26°C

参加者：3名（指導員）

担当指導員：赤木光明・石嶋基次

猛暑続きで熱中症対策を心配していたのですが、数日の間に天候が不安定になり局的に豪雨が降る状況に替り開催を危ぶんでいました。それでも「いつでもどこでも自然観察」を忘れずに観察会の準備を進め、当日のスケジュールを組み立て資料準備と下見を行ってきました。

当日は、テーマが「めざせ、トンボ博士！」と大草に相応しいものなので担当者も張り切っていましたが、開催時間少し前から黒雲登場・雷鳴が鳴り響き大粒の雨が滝のように降り始めました。参加者が天気予報により不安定な天候を予測して1名も出掛けて来なかつたのが幸いで、安堵しました。

雷雨も納まり小雨の中を応援の指導員3名と観察会コースを一巡し、トンボの生態を観察して今回の観察会を終了しました。「トンボ博士」の誕生は先の事になりそうです。

プログラムは大草谷津田とトンボの関係を少しでも理解して「トンボ博士」誕生のお手伝いが出来るように企画しました。

1. 樹林を歩き観察出来たトンボの種類となぜ樹林の中に居るのか考える。
2. 準備した資料を見せて、トンボの概略分類と体型・翅の説明。
3. 前日に水路・田圃からサンプル採取したヤゴを観察。卵やヤゴの生育期間説明。
4. 東邦大田圃近辺でトンボを捕獲。種別・雌雄同定、全長測定、記録、特徴観察。
5. 飛翔目視や捕獲したトンボからどのような場所に多いか、なぜ多いのか、考える。
6. トンボやホタルの棲む里山や谷津田の自然はどのように守られて来たか。

観察メモ

1. 千葉市のボランティアが稲作を行っている部分にはトンボの飛翔数が少ないが、南側の東邦大他が管理している田圃は部分的にしか稲作が行われておらず、耕作されていない田には開放水面が出来て水生植物もあり、一部の田は湿地が出ていてトンボ達の絶好の産卵場所となり、飛翔する種類や数が多いです。この部分は多様な水生動植物の貴重な生育場所となっています。どちらが「生きものの里」に相応しいのでしょうか。
2. 雨宿りをして居る時に、この大雨の中でもノシメトンボ2頭が細い棒の先にとまり、雨に耐えている姿が観られ参加者と共に感動しました。
3. 観察会当日に観察路周辺が草払い機で草刈が行われていた。担当役員が事前に市と交渉をしたが回避出来なかった。安全上・観察環境面から管理作業と観察会が出来るだけ重ならないように協議して頂きたい。（千葉市・管理組合・自然観察らば）